

2 ノート指導の充実

【1】 自分のノートづくりと構造的な板書

〈構造的な板書の例〉



教師の板書を写すだけではない自分のノートづくりのためには、構造的な板書が重要である。「めあて」・「思考の過程」・「まとめ」が1時間の授業を通して「見える」構造的な板書は、分かりやすい授業の実現につながると同時に、児童生徒のノートづくりの手本ともなる。また、そのようなノートづくりをしていくことは、学びの過程が実感しやすくなり、児童生徒の主体的な学習にもつながる。

【2】 モデルノートの掲示

授業ノートのよいモデルを定期的に廊下や教室に提示することで、ノートのまとめ方を具体的に示すことができ、モデルノートを参考にして自分のノートづくりに生かすことができる。

3 「振り返る活動」の充実

児童生徒にとって「振り返る活動」は、自分の学びを評価する活動である。授業で「何がわかったのか」「何ができるようになったのか」について、自分の言葉で振り返る活動を大切にしていける必要がある。ねらいに即した振り返りやまとめを意識することは、児童生徒の学習意欲の向上ばかりでなく、学習内容の確実な定着や思考力・判断力・表現力等の育成の観点からも有効である。

【実施方法①：授業の最後に】

児童生徒の発達の段階や実態に応じて、◎・○・△などのマークでの振り返りから、徐々に自分の言葉で表現できるようにしていく。その際、単なる感想等にならないように、教師がねらいに即したキーワードを示し、それを使って振り返りやまとめができるようにするなどの工夫をし、1～2行程度の文でまとめられるようにしている。また、自分の言葉で書けない児童生徒への支援として、日常的に次のような工夫をしている。

・【書くことへの抵抗をなくす工夫】

日記、短作文、ひと言感想、五七五作文、視写 等

・【語彙を増やす工夫】

読書、音読、しりとり、カタカナ言葉集め、熟語集め 等
さらには、振り返りの方法の一つとして、本時に関連する問題を解くことで振り返るなど、多様な活動を行っている。

【実施方法②：自主学習で】

自主学習においても、めあての(め)、振り返りの(ふ) というように授業と同様に書いて取り組むことで、振り返りやまとめの習慣化や自己評価の力の育成を図っている。

矢小学力向上プラン 8・9月

学校総務課 27・8・26

☆ 7月29日(水)の話し合った学校全体としての取組、具体策の本校としての「学力向上プラン」です。(別紙)

グループごとに話し合った具体策は、職員室内に掲示します。

夏休み後から実施をお願いします

授業で・・・

① 授業での「振り返り」の実施
教師からの授業の「まとめ」ではなく、授業について児童自身でまとめたりする。話し合いを奨励し、その場である。学年の指導員や教員、及び指導員を考慮し、実施する。

★ 記号で・・・
○◎がめあて
○◎が振り返り
◎が振り返り

② **赤で 短い言葉で**
単一事項に即して、短期を繰り返すこと。

③ **青で できるだけ言葉で**

② ペア、小グループ等、考えを伝え合う場を意図的に作る。【例えば】

★ 時間を決めて話す。
★ 言葉集め。
★ 話しやすい話題で

【例えば】
「読書」を扱った本を
児童がそれぞれ自由に読み合わせ、使う。
○ 好きな本は、一冊です。それは、～
○ 主として、次に、受けて、～
○ この本の考えを、～
○ ～です。なぜか?

話しやすい雰囲気作りを

確認・共通理解・・・

① 家庭学習の時間
学年×10+10分

② 家庭学習とは・・・宿題+自主学習
(学年が上がるほど自主学習の割合が大きくなるように)

【加筆】・・・児童の力に応じて課題を設定。
自主学習ノート・・・内容の提示をする。
上記家庭ノートを提示したり、紹介したりする。

〈「振り返る活動」についての共通理解〉